



同時接種(どうじせっしゅ)

同時接種の安全性とその利点について解説します

A-03



Q. 同時接種とはなんでしょう？



A. 同時に、複数の異なるワクチンを受けることです

例えば、生後2か月で予防接種の外来に行きます。まず最初に口からロタウイルスワクチンを飲み、次にヒブワクチンを左の腕に、そして肺炎球菌ワクチンを右の腕に、最後にB型肝炎ワクチンを左の太ももに同時に接種します。幾つかのワクチンを同時に接種することは、何となく怖いとか、大丈夫かなと不安に思われる方は多いかと思えます。日本では、乳幼



児に接種できるワクチンが増えてきた2008年以降、同時接種が必要となってきました。国内で同時接種の歴史が浅いのも同時接種に対して不安となる理由の一つかもしれません。



Q. 同時接種は安全ですか？



A. はい、安全です

同時接種が安全なことは、同時接種を昔から行っている海外の国々でも確認されています。現在、子どもに接種できるワクチンのどの様な組み合わせでも安全に接種できることが今までの研究で分かっています。また、1回で接種できるワクチンの本数に原則、制限がないことも分かっています。

ワクチンを接種した後に起こるワクチンの副反応は、ワクチンを接種した後に一定の割合で起こりますが、同時接種によってその割合が増える訳ではありません。



例えば、お子さんが受けたそれぞれのワクチンで「1」の副反応が起こると仮定すると、4本を同時に接種した場合、「1+1+1+1=4」で「4」の副反応が起こることが考えられます。しかしながら、それが、「10」になったり、「100」になったりすることは決してありません。4本を別々に受けても、その合計は「4」ですので、最終的に副反応のリスクは同じになります。

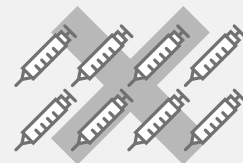
例えば…

反応が1のワクチンを4本接種  ×4

4つの副反応



10や100の副反応



Q. 同時接種でそれぞれのワクチンの効果が落ちることや、強くなることはないですか？



A. ありません

ワクチンが体の中に入った場合、それを処理する体の免疫の働きはとても良くできていて、一つのワクチンの接種によって使われるその免疫の機能は、ほんのわずかです。このことは、「海の中に、塩を少し投げ入れるようなもので、海水の塩分の濃さが大きく変わらないこと」に例えられます。ですので、複数のワクチンを接種してもその効果が落ちたり、強くなることはありませんので、安心して同時接種を受けてください。



Q. 同時接種の利点は何でしょう？



A. 同時接種の利点として、次の4つがあげられます

- 接種した日から、免疫が付き始めますので、より多くの病気に対して早く守られます。
- 医療機関に行く回数が減りますので、保護者の方の時間的な負担が大幅に減ります。
- 医療関係者の時間的な負担を減らすことができますので、皆さんが外来で待つ時間も減ることにつながります。
- ワクチンを同時に接種することで、それぞれのワクチンの接種を終えた人の数が早く、かつ多くなります。これは、社会全体からその病気を減らし、なくすことにつながります。

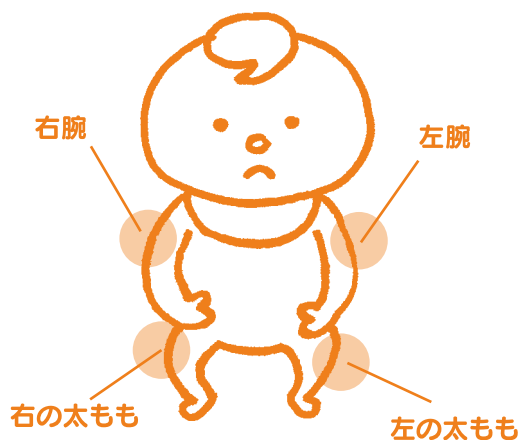


Q. 同時接種はどの様に行われますか？

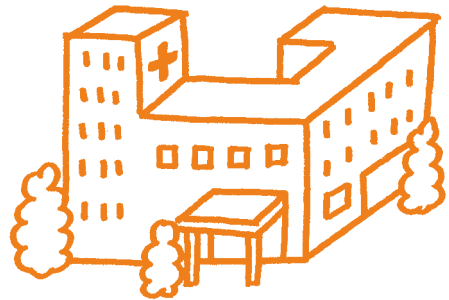


A. 別々の場所に接種します

同時接種は、いくつかのワクチンを同時に、からだの別の部位に接種します。たとえば、左腕、右腕、左の太もも、右の太ももなどです。ですので、それぞれのワクチンを接種する度にお子さんは泣いてしまうでしょう。いくつかのワクチンを1本に吸っ



て、まとめて接種してしまえばいいかなと思われるかもしれませんが、それぞれのワクチンは、効果がしっかりでて、安全に接種できるようによく考えられた成分で作られていますので、一緒に混ぜて接種することはできません。尚、同じ腕や太ももに接種する場合は、少なくとも2.5cm以上あけて接種することになります。



Q. どうしても同時接種したくない場合は、どうしたらいいのでしょうか？



A. 医師と相談してください

現在のワクチンのスケジュールでは、同時接種なしで予定通りに必要なワクチンを接種することは困難です。しかし、どうしてもお子さんに複数のワクチンを同時に接種したくない場合は、ワクチンを接種する医師と相談して下さい。ただしその際は、これまでに書いた同時接種の利点を受けることができなくなります。特に、接種の遅れによって、ワクチンで予防できる病気にかかるリスクが上がってしまうことは、よく分かっておく必要があります。

